

茶の湯と音楽

岡本文音 著

2012年1月刊行予定

A5判・368頁／定価8,190円(税込) ISBN978-4-7842-1606-2

茶の湯の美的価値観や性格は、これまで現存する道具や茶室、道具名物記や描かれた茶室の図面など、形として残されたものの考証から論じられてきた。だが、本書では形としては残され得ない「音楽」という視点から、その論考を試みるものである。室町時代後期の草創期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもときつつ、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、大きく能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)という4つのトピックから明らかにする。

内容目次

序章 茶の湯の音楽

—音楽という用語とその概念—

一 中国における「音楽」 二 古代日本における「音楽」 三 平安期における「音楽」 四 中世・近世における「音楽」 五 西洋における「音楽」 六 明治以降における「音楽」 七 今日の「音楽」

第一章 茶の湯と能楽

—茶会記に登場する能楽者たち—

一 観世 二 金春 三 宮王 四 大蔵 五 金剛 六 高安 七 一噌 八 森田 九 下間 十 そのほかの手猿楽者

第二章 「峯すり」考

—『南方録』における「峯すり」の表現するズレの考察—

一 曲尺割(かねわり) 二 絵図のなかのスリ 三 文中のスリ 四 鉢ハツシ 五 音楽の拍子 六 背景としての音楽素養 七 拍子二合

第三章 「五音ノ湯アヒ」考

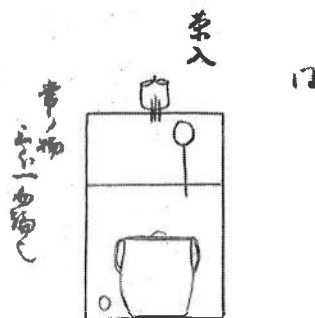
—茶の湯の釜の煮え音をめぐって—

(1)『南方録』における火相と湯相による茶の湯論
一 五月雨ノコロ 二 茶ト湯ノ相應 三 初座ノ火アヒ・後座ノ湯アヒ 四 ノベチバメ 五 三炭ノ大秘事 六 四つの逸話 七 茶ノ氣と湯アヒ 八 深ノ道理 九 火相と湯相
(2)五音ノ湯アヒ 一 先行研究 二 『南方録』における「五音ノ湯アヒ」 三 茶の湯の釜の煮え音の系譜 四 御釜ノ二エ音

第四章 茶の湯の音楽

—『日本教会史』における「市中の山居」を糸口にして—

一 市中の山居 二 沈黙の音楽 三 静寂の音楽



おかもと・あやね...島根県奥出雲生まれ。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。演奏活動およびコーラスなどの音楽指導のかたわら、裏千家学園茶道専門学校研究科を経て、宝塚造形芸術大学(現:宝塚大学)大学院博士後期課程修了。博士(芸術学)。現在、高野山大学客員教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-751-1781 fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	茶の湯と音楽	本体7,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1606-2	
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
書店番線印					

くずし字辞典

波多野幸彦監修／東京手紙の会編

天皇・公家・武將・僧侶・茶人・文人・商人などの実用の書である自筆消息(書状)からその筆跡(35,000字)を、また必要に応じて中国の代表的書家・文人からも拾集した画期的な辞典。著者総数400人をこえる筆跡を採集し、巻末に簡単な略歴を備えた人名索引を、部首・総画・音訓の索引を付した。消息の解説や鑑賞などに幅広く活用できる。

▶A5判・1452頁／定価 6,300円 ISBN4-7842-1024-5

武野紹鷗 わびの創造

戸田勝久先生喜寿記念論集刊行会編

裏千家今日庵業縁であり、教授者(茶名宗安)と併せて、永年茶の湯研究に従事してきた戸田勝久先生の喜寿を記念し、武野紹鷗を基軸として、斯界の論者24人が原稿を持ち寄った論集。

【内容】武野紹鷗と千利休／室町末期の三条西家の三栖庄経営と武野紹鷗／武野紹鷗と本願寺／武野紹鷗の書状／珠光「心の一紙」再考 他

▶A5判・614頁／定価 12,600円 ISBN978-4-7842-1471-6

※茶書の研究・茶人の研究 [全2冊]

末宗廣著

茶人であり、めききでもあった著者は、同時に近代的茶道史研究の先駆者でもあった。秘庫に蔵せられた茶書を探り、歴大な数の茶人を記録し、茶道史研究に文献史学の方法を導入、新しい領域を切りひらいた著者の60余年の研究業績を集成。その発表論文の中から、茶道・茶人にかかわる研究を2冊に収める。

▶菊判・総1450頁／定価 30,450円 ISBN4-7842-0240-4

増補 蓮月尼全集

村上素道編

幕末の歌人・大田垣蓮月は、次々に肉親との死別し、出家の後孤高の生涯を送るが、その作風は閑雅、清新、また作陶でも知られ、多芸の人でもあった。本書は、蓮月の歌・消息・伝記を収めた『蓮月尼全集』(昭和2年刊行)に、新たに発見された歌集、書画帖(花くらべ)、消息53通を増補した昭和55年版の復刊。

▶A5判・770頁／定価 12,600円 ISBN4-7842-0182-3

金森宗和茶書

谷晃校訂

底本には金沢市立図書館藤本文庫所蔵の『茶道の書本』を、校合には陽明文庫蔵の『金森茶道放実』を用い、陽明本と国会本(流布本)の追加分は別途収録した。流布本の一つ藤本文庫蔵『宗和流茶湯書』にみられる付箋と朱書書込・墨書書込も該当箇所に掲げる。

▶A5判・490頁／定価 13,125円 ISBN4-7842-0944-1

茶湯古典叢書 4

公家茶道の研究

谷端昭夫著

近世における「公家茶道」を取り上げ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶が持つ文化の内実を深める。

【内容】茶道史研究と公家の茶／堺におけるわび茶の発展と大徳寺／五山の茶／織田信長と吉田兼見／禁中茶会とその経緯／公家たちの茶一『兼見卿記』から／昭乗茶会記／後水尾院の茶会 他

▶A5判・394頁／定価 6,825円 ISBN4-7842-1265-5

茶の湯 連翹抄

戸田勝久著

著者は、裏千家の茶家戸田即日庵に生れ、父は今日庵名譽教授直翁宗寛。尾張徳川家の世臣であったが、瓦解の後東京に移居して茶家となった。今日庵業縁として三代を経ている。教授者(茶名宗安)と併せて、茶の湯の研究に従事して、平成17年3月まで茶の湯文化学会副会長の任にあった。本書は、その業績を集大成(全30篇)した大著。

▶A5判・604頁／定価 7,980円 ISBN4-7842-1267-1

江月宗玩 欠伸稿訳注 [乾・坤]

芳澤澤弘編著

江戸時代前期の臨済宗僧侶・江月宗玩の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。分量的には、影印で刊行されている写本「孤蓬庵本」のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偈頌などを収録する。

(乾) ▶A5判・646頁／定価 9,975円 ISBN978-4-7842-1462-4
(坤) ▶A5判・774頁／定価 9,975円 ISBN978-4-7842-1515-7

茶譜 [本文篇・図版篇]

茶湯古典叢書 5

谷晃・矢ヶ崎善太郎校訂

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜(全18冊)は、利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。

▶A5判・総924頁／定価 21,000円 ISBN978-4-7842-1528-7

古田織部茶書 [全2巻]

茶湯古典叢書 2・3

市野干鶴子校訂

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成したものである。織部の茶書を2巻にわたって刊行し、「宗甫公古職へ御尋書」「古田織部正殿問書」「織部百ヶ条」等8篇を収録。

(一) ▶A5判・400頁／定価 6,510円 ISBN4-7842-0203-X
(二) ▶A5判・400頁／定価 8,610円 ISBN4-7842-0204-8

隔葉記 総索引

『隔葉記』研究会編

『隔葉記』全6巻の膨大な情報を索引として刊行。人名(8000)・事項(8800)・社寺名(550)・地名(500)に分けて編集。人名索引は別称・異称・官位官職・寺院名・姻戚・師弟関係・居住地や鳳林・校注者の誤り等を併記。事項索引には陶磁器・園芸・建築・書画などの諸分野の項目を収録。

▶A5判・760頁／定価 14,700円 ISBN4-7842-1312-0

隔葉記 [全7巻／本篇6冊・総索引1冊]

本篇・赤松俊秀校訂／総索引：『隔葉記』研究会編

鹿苑寺住持鳳林承章が寛永12(1635)年から寛文8(1668)年までの33年間に渡って書き継いだ自筆日記で、近世の日記の中でも一級の記録を活性化。その記事内容はきわめて豊富で、17世紀中ごろの政治・経済・社会はもとより、文芸や芸能においても必読。

▶A5判・平均730頁／定価 73,500円 ISBN4-7842-1311-2

藤村庸軒年譜考 [全2冊]

白奇頭成著

漢詩集と茶会記をもとに編年で藤村庸軒の生涯を文献学的方法によって明かした異色の年譜考。茶道を軸とした近世文化史の魅力を伝える一書。庸軒の茶は、深い教養に支えられた美的に人格形成をなしとげるための総合芸術であった。元禄文化を支え、文人墨客とのネットワークをつなぐキーマンであった庸軒の全体像に迫る。

▶A5判・総1848頁／定価 36,750円 ISBN978-4-7842-1456-3

宮古島狩俣の神歌 その継承と創成

内田順子著

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡(神歌)の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、その都度どのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

▶A5判・300頁／定価 6,930円 ISBN4-7842-1036-9

蘭室藤村正員年譜考

白奇頭成著

庸軒流茶道の祖、藤村庸軒の三男藤村正員(1650-1733)の事跡について、自著『蘭室草』の収録作品(漢詩・和歌など)にそいながら、生涯の動向を歳ごとに明かした異色の年譜考。広汎な諸資料にもとづいた京坂の茶人・文人たちとの交わりは、茶道を軸とした近世文化史の一面面を伝える趣きを備えた一書。

▶A5判・480頁／定価 6,090円 ISBN4-7842-1173-X

神霊の音ずれ 太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

朱家駿著

中国・日本を中心とする広い漢字文化圏という背景を念頭に置きつつ、祭祀儀礼に用いられる太鼓や鈴・鉦の音楽的な機能と本質はどこにあるのか―祭祀儀礼の音をさぐるフィールドワークと象形文字に発した古代漢字(音・楽・鼓など)の分析を重ね合わせることによって神霊と音のさまたけを明かす。

▶A5判・196頁／定価 3,675円 ISBN4-7842-1095-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。